鳥取県若桜町
つく米地区防災計画

氷ノ山スキー場の観光業者組合が取り組む スキー客と従業員の安心安全に向けた計画づくり

作成日　２０２０年３月

1.取組の経緯と特徴

＜地域特性＞

つく米地区は氷ノ山（標高1,510m)の登山口にあり、冬はスキー場、夏は登山・キャンプ場でにぎわい、年間13万人が訪れる。地区内には宿泊施設やレストランなどがあり、スキーシーズン中には、各事業所に職員100人程度、スキー客300人程度が地区内に滞在する一方で、夏期に営業する宿泊施設（全9施設）は3施設のみとなる。

冬期間の降雪量が多く、昭和58～59年豪雪では雪崩による旅館の倒壊等があり、平成30年7月豪雨では土砂崩れにより国道482号が通行止めとなり孤立している。

＜主な課題＞

地区内に地滑り、土石流、急傾斜地、雪崩などの危険個所があり、雪崩、土砂崩れによる孤立の恐れがある。地区内の観光業者組合で自主防災組織を結成、スキー客、登山者、観光客等の安全と災害による被害の防止と軽減を図っている。

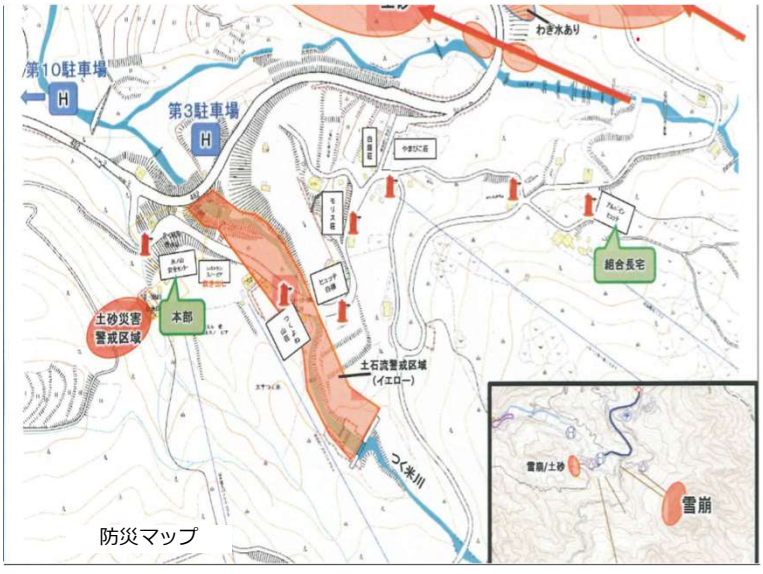
氷ノ山スキー場全景

つく米地区の位置

2.取組状況

町の支援を受けながら自主防災活動を展開し、計画内容を検討

- 7月9日
  - 事業説明会：地区防災計画の取組み目的とスケジュールの確認、地図を用いて危険個所や避難所の確認を実施
- 8月
  - 防災マップづくり：課題の抽出、対策の検討
- 9月8日
  - 町防災訓練の実施
  - 避難所運営マニュアルの見直し
  - 町の防災訓練で避難所運営マニュアル、避難所運営初動キットの説明を受けた
- 9月27日
  - 計画骨子案の修正：上空からの写真を見ながら、防災マップの見直し。地区防災計画について、町のチェックシートを見ながら検討
- 10-11月
  - 自主活動：地区防災計画骨子のまとめ、避難訓練計画の策定
- 11月29日
  - 避難訓練・反省会の実施、計画内容の検証
  - ワークショップ：計画内容の再検討
- 12-3月
  - 自主活動：地区防災計画骨子の修正、素案のまとめ



防災マップ

3.取組の成果と課題

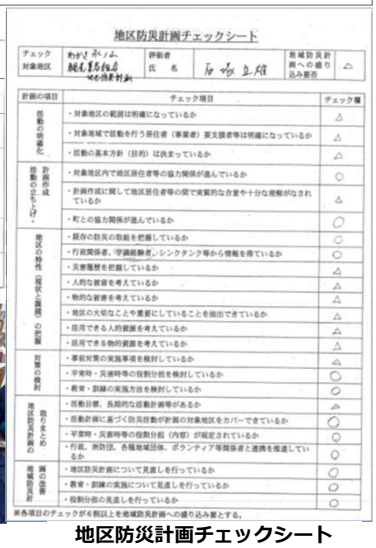
地区防災計画に関する成果

- ○スキー場の観光事業者による災害時の役割分担が整理された
- ○計画素案作成や町チェックシートでの評価を通じ防災活動の目標が共有された

今後の課題

- ○スキー場の既存の資源を活用した孤立対策等の検討
- ○周辺集落の巻き込みによる協力・連携関係の構築

ワークショップの様子



地区防災計画チェックシート

4.今後の取組目標と他地区への展開

今後の取組目標

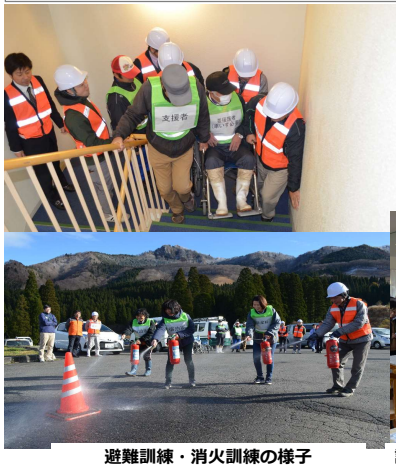
- ○地区の情報伝達体制の確立
- ○地区防災計画の取組をつく米自治会・他の地区の自主防災会に報告

訓練の実施

- ○町の防災訓練に参加
- ○地区の防災訓練を実施し地区防災計画の検証と見直しを行う

全国に展開できるモデル性

- ○土砂災害や雪崩による孤立への事業者連携による備え
- ○スキー場の各種資源を活用し、災害時以外の緊急対応（急病人等）にも応用できる事業者間及び関係機関連携の取組み



避難訓練・消火訓練の様子

訓練の計画検討協議・ワークショップの様子

今年、氷ノ山はこれまでにない雪が少ないシーズンでした。災害に備え、氷ノ山観光業者組合は、定期的に共同で避難訓練を実施してきましたが、新たに自主防災会を結成し、組合員が力を合わせて自主的な防災活動を行うことで、スキー客、登山者、観光客等の安全と災害による被害の防止と軽減を図ることを申し合わせました。地区防災計画についても、訓練と検証を行い安心安全に向けた計画にしていきたいと思います。

氷ノ山観光業者組合　組合長　山根　政彦